

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームテアフル 笑明かり・咲明かり(笑)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	平成30年12月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200081-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掃除・洗濯・調理・買い物等を職員と行き、個々の持てる力を維持し、達成感が持てるようにしている。遠足・モーニング・ランチ等外出が多く、気分転換を図り、地域の一人として豊かな生活が送れるようにしている。春祭りや運動会は準備から共に行い行事を盛り上げている。餅つき・会議・町内の祭りの休憩等でご家族や地域の方にご参加・ご協力頂き交流している。花鑑賞やおはぎ作成等、昔なじみの行事や季節感を大切にしている。何事も自己決定出来るように努め、ご家族ご協力の下野球観戦に行った。生きてるって素敵の理念を胸に、個々の想いに寄り添い答えられるように柔軟な対応を心がけ、その人らしく生活出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月ミーティングで確認・共有し実践に繋げている。共有ルームに掲示し常に意識できるようにしている。行事時は理念を元にスローガンが作られる。1人1人を知り、その人らしく過ごせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時お花を頂ける事がある。町内のゴミ集め・地域の消防訓練に参加し、積極的に挨拶し関係構築に努めている。民謡・落語等ボランティアの訪問がある。会議で地域の方に行事の情報を聴き参加に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご本人・ご家族・地域の方と事業所の活動報告や意見交換できるように、行事・会議・認知症カフェに参加して頂けるように努めている。訪問者・実習生等に認知症の理解をして頂けるように、積極的に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・長寿会・民生委員・役所・ご本人・ご家族に参加頂き、年に6回行事を含み行っている。話しやすい雰囲気を作り活動報告し、意見・要望・地域行事内容の情報等を話し合いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や行事に参加して頂き、事業所の取り組みを伝えながら、感じた事を意見交換が出来る関係作りに努めている。日頃の連絡は主に管理者が行い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を設置し、拘束ゼロ及びサービスの向上を目指し、定期的に話し合っている。ミーティング時、職員全員が共有し、日々のケアの見直し意識向上に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び理解に努めている。ヒヤリ等利用し、ミーティング時に不適切なケアや異常がないか話し合い、虐待の芽を見逃さないよう防止に努めている。職員のストレス度合いも観察し職員間で情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している人はいない。日常生活自立支援事業や成年後見制度・法的な知識について理解している人は少ない。今後学ぶ機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が疑問点を1つずつ説明し理解を求めている。解約時、管理者・リーダーで連携を取り、ご本人・ご家族の想いを伺い話し合いをしている。改定時、家族会等開催し納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議等で意見・要望を表せる機会がある。話しやすい雰囲気作り心がけ、ご本人・ご家族の想いを伺い反映に努めている。連絡帳・申し送りで職員間の共有に努め管理者に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の面談・ミーティング(フロア・行事・リーダー)で意見が言える。言えない人は文書でも聴いている。行事は企画からアイデアを取り入れ、ケア内容や勉強会の内容も職員が行いたい事を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談で個々の状態把握に努め目標を決めている。定期的に目標の振り返り・要望等話し向上心を持ち働けるよう環境整備に努めている。年1回健康診断・ワクチン接種、ユニットで3か月に1回・全体で年に1回食事会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は自ら項目を選択し、行動計画・実施・振り返りをしている。外部研修は年1回事業所負担で行け、力量に応じ勧められる事もある。研修後全職員に書面で報告、ユニット内で発表し知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ施設内の研修・行事等で交流する場があり、意見交換し質の向上に努めている。他事業所とは交流が少ない。尾張地区のネットワークがあるが参加できていない。積極的に関係を深めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い笑顔で明るく接し、ゆったりとした雰囲気を作り、想いや不安を引き出せるようにしている。安心を確保する為に、早期に信頼関係が築け、他者等の仲介に入り早く馴染めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、管理者が不安・要望等を十分に話し合い、安心してサービスが受けられるようにしている。笑顔で話しやすい雰囲気を心がけ、小さな事にも耳を傾けて要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の想い・希望を伺い、管理者と職員で話し合い、他のサービスでも今その人が必要としている支援を見極め、より良い生活が提供出来るように努めている。その為に情報収集にも心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として子育て・嫁として・生活の知恵を教えて頂いたり、男性は重い荷物を持つ等、支え合う関係を築いている。常に共に過ごし、協力し合い、喜び・楽しみ・不安等の想いを共感し理解に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、少しの変化を含め近況報告し、ご要望・ご意見を聴く事を心がけている。行事・ランチ・衣替え等、ご家族と今までと変わらず絆を大切に、ご家族と共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店・病院・理髪店等にご家族やご友人と行っている。気軽に立ち寄れる雰囲気を作り、共有ルーム等で話している。会話の中から得た馴染みの店等に行く事もあり、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人柄・能力・関係性等把握し席を決めている。ソファで話す・共に洗濯を干す・他者のコップを運ぶ等の場面が見られる。職員も輪に入りながら、利用者同士が関わり支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、ご本人・ご家族が困らないように相談・支援の場となるように努めている。いつでも来設出来て、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・言動等を見逃さないようにし、思い・要望の把握に努めている。ご本人がどうしたいか、自分がその人だったらと考えるように心がけている。要望は、連絡帳・ミーティング等で共有し、実践出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・アセスメントシートやご本人・ご家族の会話から暮らし方・趣味等の把握に努めている。日記を書く・サプリメントを飲む等、今までの暮らしと変わらない事が出来て、その人らしく楽しく暮らせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄やバイタル・言動・作業等から心身状態・有する力を感じ取り、現状の把握に努めている。1人1人違っていい事・出来ないと決めつけず共に行う事を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングで、介護計画に沿って気づきを話し合い、見直し・変更をしている。ご本人・ご家族・医師・看護師等、それぞれの意見やアイデアを反映し、ご本人がより良く暮らす為の介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画内容を記載し、実践時チェックしたり、日々の気づき・言動等5W1Hや色を変えて解り易く記入する事に努めている。連絡帳や申し送り等で情報共有し、実践・介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時に生まれる、ご本人・ご家族の思いに応えられるように、管理者・職員で話し合いをしながら、柔軟な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー・喫茶店・ゴミ捨て・散歩・行事参加で関係作りに努めている。ご本人利用の病院・美容室・店等にご家族や職員と行く事があり、個々の地域資源の把握に努め、豊かなで楽しい暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望で3名かかりつけ医で受診している。ご家族協力の下、安心して受診が出来る様に情報提供している。月に1回往診医より治療が受けられる。急な診察もご本人・ご家族に伺いながら受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に3回看護師訪問があり、体調変化・気づき等、報告・相談し指示を仰いでいる。お腹の音を聴いたり・爪切りも行っている。いつでも連絡出来る体制にあり、緊急時等も適切なケアが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書作成。電話も対応している。定期的にお見舞いに行きご本人が安心出来ると共に、関係者と話して現状把握に努めている。退院時、看護師・相談員と情報共有し、ご本人・ご家族と話し合い、安心して帰ってこられる環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、管理者から説明をしている。変化時等ご家族と話し合いの場を設け、今後起こりうる事、事業所の出来る事・出来ない事等の説明をしている。臨時のミーティングを開催する事もあり、ご本人にとってよりよい生活が出来るように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で学び、急変時等のマニュアルや連絡体制は目につく所にあり備えているが、実際は経験が少ない為不安がある。いつ起きても職員全員が対応が出来るように、定期的に勉強・訓練を行っていく事が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に1度様々な想定から避難訓練を行っている。参加出来なかった人も周知が出来るように書面に残して確認をしている。地域を巻き込んだ訓練が出来ていないので、協力を得られるように働きかけが必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣い・態度に配慮し個々・場面によって声掛けを変えている。トイレはさりげなく・申し送り時声や場所等、プライバシーに配慮し、ご本人の立場を考えた対応に努め職員間で指摘している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ・メニュー・誕生日プレゼントや祝い方・掃除・入浴のタイミング等、1つ1つご本人の想いを聴きながら決定出来る様にしている。表現が苦手な方も決めつけず、思いや希望を汲み取り引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり・居室で休む・夕方に運動・お酒を飲む等、自由に1人1人のペースで過ごせるように努めている。どう過ごしたいか汲み取れるように、言動等注意深く観察し、利用者主体の生活となるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服・髪型・髭・爪に気を配り整えている。同じ服が続かないように、外出時はオシャレな服を共に選ぶ、祭り時化粧やネイルをしている。時計・指輪等、その人らしいオシャレが出来るようにしている。定期的に美容室訪問もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	70アから台所が見え五感が刺激される作りになっている。好きな物伺い献立作り・買い物・調理・片付けを共に行っている。季節感・行事に合った食材や彩に配慮し、食事中も会話し楽しみとなるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1汁3菜の献立で食事・水分量をチェックし個々に合った食事量の提供に努めている。ご飯大盛り・水分少量・パンよりご飯等、好みに合わせたり、食事が進まない時はアイスクリーム・ゼリー、細目に水分を勧めて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き方・ゆすぎ方が解らない等、個々に合わせ声掛けを行っている。その都度、口腔内磨き残しの確認している。義歯の方は毎晩洗浄と週1回ホリデントを行っている。3名が訪問歯科を利用し掃除や指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個々のパターン把握に努めトイレで排泄が出来る様にしている。動きを観察し行きたい時を見逃さないようにしている。使用品もミーティングで話している。誘導・失敗時、声掛けに十分注意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨー・フルーツ・麦ご飯等、食品を工夫し提供している。朝排泄表に出ていない日数を記入し、トイレにゆっくり座る・ミルク等水分を勧める・活動量を増やす等、個々に合わせ自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1番・ぬるめ・シャンプー使用等、個々の要望に沿い1日おきに行っている。嫌な時は無理はしない。季節を感じられるよう菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用。音楽をかけ談笑しながらゆったり寛ぎ楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はソファで寛いだり、居室で横になる等思い思いに好きな時・場所で休めるようにしている。疲れ気味・外出後は声を掛け休んで頂いている。音に配慮し、室温・照明等個々に合わせ安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報が個々のファイルにある。いつでも確認が出来て、効能・副作用等の理解に努めている。勉強会で薬の重要性を学び、薬との関係を含めて本人の状態観察しご家族・看護師・医師と相談に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートやご本人・ご家族から楽しみ等知る事に努めている。部屋でお菓子・俳句・畑の収穫・花・歌等の楽しみや、掲示物の作成・家事等得意な事を個々に理解し、楽しみある生活になるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・ランチ・週1回のモーニング・月1回の遠足等があり、季節感を大切に相談して外出先を決めている。イルミネーションや花火等夜も外出する。「野球見に行きたい」との意見でご家族と共に見に行けた。個々の馴染みの場所へ行けるように努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員側で管理をしている。買い物や喫茶店等で支払い、帰設後出納帳記入・計算を行い、お金を触る機会を作っている。1名ご本人希望よりご家族に相談し少量お金を所持し、お菓子を購入している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事の招待状にご本人にコメントして頂きご家族に送っている。「電話したい」と希望時、他者に配慮しながら話しやすい雰囲気作りをしている。手紙や年賀状の返事は、ご本人に確認しながら返事を送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下は柔らかい照明、場面に合わせた音楽、温度差をなくし清潔に心がけている。廊下やフロアに季節感を取り入れた飾り・写真・壁画等掲示しご利用者同士やご家族と話している。トイレは広く、手すりも多くあり1人1人の居心地のいい空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に食卓スペースとソファとテレビの空間があり、他者と話す・居眠り・ゲーム等、思い思いに過ごせるように心がけている。1人になりたい時ゆっくりできたり、共有ルーム・他ユニットに自由行き来出来る環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・布団・仏壇・お位牌・ご家族写真等、馴染みの物を持参している。塗り絵・折り紙等作品を飾っている方もみえ、個々の空間を大切に、心地よく過ごせるようにご本人・ご家族と相談して行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆で作業しやすい台所・館内はバリアフリーで廊下も広く、至る所に手すりがあり階段も昇れる。車いす自走も出来る。見守りの中で作業を行い、個々の解る事の把握に努め安全で自立した生活が送れるようにしている。		